

2026年2月25日

公益財団法人 新聞通信調査会

2025 年度ボーン・上田記念国際記者賞受賞者決定

公益財団法人新聞通信調査会は 25 日、2025 年度のボーン・上田記念国際記者賞を共同通信政治部の福田公則（ふくだ・まさのり）記者、毎日新聞カイロ支局長の金子淳（かねこ・じゅん）記者の 2 人に、また特別賞を日本テレビ国際部の坂井英人（さかい・ひでと）記者にそれぞれ授与すると発表した。

福田記者は海上自衛隊の護衛艦が 2024 年 7 月に中国領海内に誤って侵入した際、中国が警告射撃として少なくとも 2 発の砲弾を発射していたことや、両国防衛当局間のホットラインが使われていなかったことなど両政府が秘匿してきた日中対立最前線の実態を明らかにした。

金子記者はアサド政権が崩壊したシリアに入り、最後の首相を務めたジャラリ氏の単独インタビューを通して独裁政権の最後の瞬間を生々しく報じた。

坂井記者はロシアの侵攻後のウクライナの子供たちを継続して取材し、緊迫感のある映像で親を亡くした子らの喪失感や心の傷を克明に描き出した。

記者賞の委員会規則では「受賞要件が想定しない形で大きな成果が認められた場合は『特別賞』を贈ることがある」とされ、2003 年度にイラクのフセイン政権崩壊過程を取材したアジアプレス・インターナショナルの綿井健陽、ジャパンプレスの佐藤和考、山本美香の 3 氏に送られている。

選考委員会の総括講評は次の通り。

最終の 2 次選考に残った 5 作品のテーマは「シリア」が 2 点、「ウクライナ」と「ガザ」「日中の安保問題」が各 1 点でした。どれも緊迫する国際情勢の現実を描いた好作品です。

しかし、世界を動揺させるドナルド・トランプ米政権に関する応募作は残念ながら今回もゼロでした。政権の真相を抉る記事をぜひ次回に期待したい。

ともあれ厳正な選考の結果、重要なスクープと判断された 2 作品にボーン・上田記念国際記者賞、戦禍の中で子供達の貴重な映像を撮った報道に同賞特別賞の授与を決めました。

共同通信の福田公則記者は、交戦に発展しかねない危険な出来事を伝えまし

た。海上自衛隊の護衛艦「すずつき」が 2024 年 7 月、中国浙江省沖の中国領海に誤って侵入、中国側が少なくとも 2 発の砲弾を警告発射したという事実です。海自艦の技術的な操作ミスがその原因ですが、双方は日中の相互通報体制「海空連絡メカニズム」を活用しておらず、一触即発の危険な事態になりました。

この報道は米誌『ニューズウィーク』などが転電、国会でも問題提起されました。将来起き得る偶発的戦争の恐ろしさを認識させた秀作として評価したいと思います。

また毎日新聞の金子淳記者は、シリアのアサド前政権の崩壊後、シアラア暫定大統領が率いる反体制派勢力が突然シリアを支配した裏面の出来事を明らかにしました。

2024 年 12 月、前政権軍の兵士が逃亡したのを見たムハンマド・ジャラリ前首相が独断でビデオ声明を出し「スムーズな権力移行に協力する」と表明したところ、それを見たシアラア氏が前首相に連絡し「平和裏に権力移譲が実現した」ということです。金子記者の前首相インタビューで分かりました。

日本テレビ報道局の坂井英人記者は長期化するウクライナの戦争で苦しめられる子供たちの現状を伝えました。その映像を高く評価し特別賞とします。

朝日新聞の其山史晃記者の「アサド政権崩壊」も良い評価を受けました。2 月 1 日付朝刊に掲載された記事も良かったのですが、応募締め切り後のことで残念でした。

読売新聞の仲川高志記者の「李在明韓国大統領単独インタビュー」も評価されましたが、インタビュアーが仲川記者ではなく、個人を対象とする本賞にそぐわないと判断されました。今後、そうした点にも配慮してほしいと思います。

選考委員会委員長
春名 幹男



福田記者は 1981 年、京都市出身の 44 歳。神戸大学経済学部卒。香港中文大学高級普通話課程修了。2004 年 4 月、読売新聞大阪本社入社。12 年、共同通信入社。政治部（12～14 年）、那覇支局（14～16 年）、政治部（16～22 年）を経て、中国総局（22～25 年）で主に日中関係を担当し、両国間の外交・安保、インテリジェンスについて取材。25 年から政治部。（生年月日は 1981 年 5 月 22 日）



金子記者は 1980 年、千葉県流山市出身の 46 歳。東京外大ヒンディー語専攻卒。2006 年 4 月に毎日新聞入社。北海道支社報道部を経て 12 年に外信部。ニューデリー支局長（14～18 年）、社会部遊軍（18～21 年）、政策研究大学院大学・国際的指導力育成プログラム（20～22 年）、カイロ支局長（23～26 年）を歴任し 26 年 4 月から外信部副部長。（生年月日は 1980 年 1 月 14 日）



坂井記者 1986 年、東京都出身の 39 歳。2009 年ロンドン・カレッジ・オブ・コミュニケーション FdA Media Practice 修了。10 年から制作会社で NHK・民放の番組制作。13 年日本テレビ報道局勤務（14 年から国際部記者）。19～21 年ロイター通信東京支局。21 年から再び日本テレビ国際部記者（人材派遣会社フェイドイン所属）。23 年放送大学人間と文化専攻卒。24 年 2 月と 25 年 8～9 月にウクライナ取材。（生年月日は 1986 年 9 月 25 日）

ボーン・上田記念国際記者賞は、日米協力による自主的な世界ニュース通信網の確立に献身したマイルズ・W・ボーン元 UP 通信社（後の UPI 通信社）副社長、および同氏と親交のあった上田碩三・元電通社長が 1949 年に東京湾の浦安沖で遭難したのを惜しみ、また両氏の功績を顕彰して 1950 年に設けられた。優れた国際報道を通じて国際理解の促進に顕著な貢献のあった記者個人に贈られる。

（注 1）マイルズ・W・ボーン → Miles・W・Vaughn

（注 2）受賞者の顔写真をご希望の場合は、chosakai@helen.ocn.ne.jp までメールを送りいただければ返信に添付します。

（※）過去の受賞者については財団のホームページ(<https://www.chosakai.gr.jp/>)に掲載しています。

◆授賞式と記念講演会

授賞式は 3 月 19 日夕方から東京・内幸町の日本記者クラブで開催します。当日、取材を希望する方は事前に当財団までお問い合わせください。受賞者講演会は 3 月 20 日に横浜の日本新聞博物館（ニュースパーク）で開催します。参加方法などは主催者の新聞博物館がホームページで近く明らかにする予定です。

◆**新聞通信調査会**とは 新聞社や通信社をはじめとするメディアの発展に寄与することを目的にジャーナリズムやマスコミュニケーションの調査・研究をしている公益財団法人です。同盟通信関係資料のデジタルアーカイブ、報道写真展、世論調査、シンポジウム、講演会、月刊誌『メディア展望』発行、ボーン・上田記念国際記者賞授与、出版補助、通信社ライブラリー運営などさまざまな公益事業を実施しています。

名 称 : 公益財団法人 新聞通信調査会
英 文 名 称 : Japan Press Research Institute (略称 JPRI)
設立年月日 : 1947 年 12 月 15 日
公益財団法人移行 : 2009 年 12 月 24 日
代 表 者 : 理事長 西沢豊